

九州地域 I C T 利活用調査研究会 平成 2 4 年度活動報告

平成 2 5 年 4 月

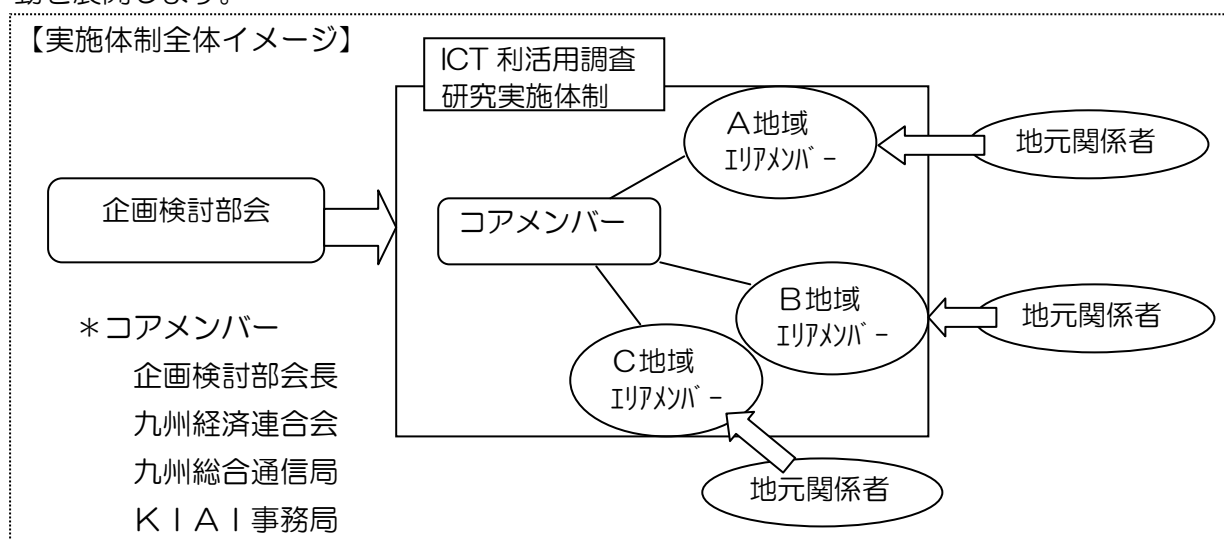
(一社)九州テレコム振興センター (K I A I)

1. 活動趣旨

九州各地域において、ICT利活用に関する実態調査を進め、様々な現状課題を分析し、当該結果を今後の九州地域の更なるICT利活用促進に寄与させていくものです。

2. 実施体制

企画検討部会より「コアメンバー」、「エリアメンバー」を選出し、具体的な活動を展開します。



3. 平成24年度実施対象自治体

- (1) 福岡県田川郡添田町（平成24年度新規）
 - (2) 熊本県球磨郡湯前町（平成23年度からの継続）
- 《参 考》
- (3) 鹿児島県肝属郡肝付町（平成22年度からの継続）
 - (4) 佐賀県佐賀市富士町（平成22年度からの継続）

4. 添田町活動結果

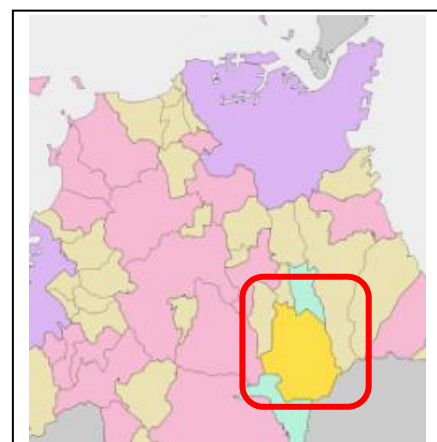
(1) 添田町概要

人 口：10,909人（H22 国勢調査速報）

世 帯：4,215（H22 国勢調査速報）

高齢化率：32.7%（H22 国勢調査）

※平成20年度町内全域に渡る光ファイバー
整備事業が終了（公設民営）



(2) 活動報告

① 添田町情報化推進勉強会発足（平成24年6月29日（金））

添田町情報化推進勉強会を発足しました。

勉強会発足式には17団体（参画団体は18団体）、40名が参加

（町内より、商工会、地元企業の方々が参加。）

1. 勉強会目的、全体事業スケジュール説明

2. 勉強会内容協議

（1）調査活動

① 町内の様々な関係者との意見交換会（タウンミーティング）

② 住民アンケート

（2）普及啓発活動

① インターネット教室

② 啓発シンポジウム・セミナー等

（3）情報発信活動

ICTを活用した添田町の様々な地域資源に関する情報発信活動

（4）上記活動を進めていく中でこれからの添田町における情報化推進体制の在り方、方向性等を検討します。



【勉強会の様子】



【寺西町長挨拶】



【町民からの発言】

【添田町情報化推進勉強会学生サポーターチーム結成】

九州工業大学情報工学部学生20名でサポーターチームを結成し、今後の勉強会活動を、若者の柔軟な発想力と行動力で支援していく体制を構築していただきました。



【九州工業大学生サポーター】

② インターネット教室の開催（平成24年8～9月）

タブレット端末によるインターネット体験中心の教室と、受講者レベルに応じた2種類の初心者向けインターネット教室を計画し、8月上旬から9月中旬にかけて実施しました。

【タブレット端末を使った体験教室】

8月7日（火）～9日（木）、8月21日（火）～8月23日（木）で町内の公民館等10箇所で開催しました。

実施場所：英彦山公民館、野田公民館、津野公民館、オークホール、
真木小学校、英彦山地区総合センター、添田小学校、町民会館
栲田公民館、中元寺公民館



【タブレット端末体験教室の様子】

【インターネット初心者教室】

受講者レベルに応じた2種類のインターネット初心者教室を、8月29日（水）～30日（木）、9月5日（水）～9月6日（木）、9月12日（水）～9月13日（木）の計6回開催しました。教室参加者に対して、別途アンケートを実施しました。

実施場所：町民会館



【インターネット初心者教室の様子】

※教室全体参加者人数（全16回）：143名（延人数）

※参加者に対して、簡単なアンケート調査も実施しました。結果概要は次の通りです。

＜アンケート分析結果概要＞

- 全体で約8割の方がインターネット加入者であるが、“ほとんど利用していない”、“まったく利用していない”の回答が約5割を占めました。
- 利用していない理由としては、操作方法、ソフトの更新方法、セキュリティ対策がわからないというものが多く見受けられました。
- インターネットサービスに加入していない人の理由の約3割が、“操作が難しそう”という理由でした。
- インターネットサービスに加入していない人のうち、約4割の人が“加入したい”、また約2割の人が“教えてくれる人がいれば加入したい”という回答結果でした。

③ タウンミーティング

【第一回】 8月9日（木）13：00～14：00

添田町役場子育てネット関連部門の方々と意見交換を行いました。

＜＜主な意見＞＞

- 子育てネットシステム、平成19年度より導入実施している。
＜加入率＞ 小学生：70.8%
中学生：29.6%
幼稚園：19.5%
保育園：89.7%
- 情報の主な項目は、健康情報（予防接種、身体測定データ、アレルギー等）で個人データ管理となっており、登録者が自己で情報開示している。あとは学校行事、くらしだより、掲示板、不審者情報等。とくに掲示板は利用が少ない。
- 操作研修については、年6回のワーキング会議で実施している。
- 病院との連携（医療関係との連携）がほとんどない。
- 閲覧はパソコンより携帯電話のほうが多い。

【第二回】 8月22日（水）11：00～12：00

添田町商工会、青年部、婦人部の方々と意見交換を行いました。

＜＜主な意見＞＞

- 商工会のホームページ制作等は詳しい知人等に依頼している。
- java 等の更新方法を知らなかったりしてホームページの更新ができないままの状態となっている。
- インターネットは一般家電感覚で使えるもの、ということを知ってもらえない。

- ・インターネットへの興味のある人と無い人の温度差（意識の違い。）
- ・パソコン等の勉強会は実施しているがその後のフォローや近くに教えてくれる人がいないため、興味のある人も離れていく。
- ・観光場所はあるのだが、町自体にとどまるところが少ない。
- ・情報発信力がない。自己満足で終わっている。
- ・町自体の教育体制でリーダーとなる人物がいない。

【第三回】 8月23日（木）11：00～12：00

添田町役場地域防災係、議会事務局、企画推進係の方々と意見交換を行いました。

＜＜主な意見＞＞

- ・防災システムで無線、有線（光）で検討中である。
- ・防災GISシステムで操作が簡易なものが無い。
- ・議会中継システムの生中継化を検討している。（役場内3階ロービーにて生中継はあるが、役場まで来ないと見られない。通常の閲覧は録画中継である。）
- ・インターネットを使用した地域ブランド商品販売を今年度計画中である。
- ・災害緊急放送方法は現在、広報車にて実施している。
- ・避難誘導方法の具体的なしくみを検討中である。
- ・監視カメラは設置しているが、夜は確認できない。
- ・GISも各課バラバラである為、早急にネットワーク整備を実施し統合したいがネットワーク整備自体が難しい。
- ・SNSをうまく活用し、情報発信力を強めたい。（発信よりも情報収集から）

【第四回】 8月23日（木）13：00～14：00

添田町役場商工観光係、地域ブランド係、有害鳥獣対策係、観光施設管理係の方々と意見交換を行いました。

＜＜主な意見＞＞

- ・観光施設のホームページは別管理である。
- ・観光ナビ等はボランティア団体に協力してもらっている。
- ・有害鳥獣を再利用した加工食品の安定供給の事業化が難しい。
- ・添田町のホームページは英彦山の情報は多いが、添田町自体の情報が少ない。
- ・ブログ等のターゲット（閲覧者）が絞れていない。
- ・全員が情報発信できる仕組みがない。

【第五回】 8月23日（木）14：00～15：00

添田町役場学校教育係、水道課管理係、総務係の方々と意見交換を行いました。

＜＜主な意見＞＞

- 添田町の文化遺産、史跡等の情報発信力が弱い。
- 学校のパソコン更改時期であるがちいさな学校である為、シンクライアント等思案中である。
- 学校職員室にネットワーク環境がなく、メールのやりとりは学校内のパソコン教室で行っている。
- シニア向けのパソコン教室はあるが、学校職員向けの教室がない。
- 防犯対策は保護者会や自治体等でのパトロール、及び子育てネットでの不審者情報。

【第六回】 8月23日（木）15：00～16：00

添田町役場戸籍住民係、保険年金係、税務係の方々と意見交換を行いました。

＜＜主な意見＞＞

- 制度変更があるたびにすぐにシステムが変わる為、操作面で苦労している。
- 新任研修がない。基本は前任者からの引継ぎである。
- 窓口のQ&Aシステムや、マニュアルが少ない。
- 添田町のホームページからの申請書等のダウンロードはできるが、申請自体が紙ベースである為、役場窓口に行かないと申請できない。

【第七回】 9月6日（木）13：00～15：00

長崎総合科学大学、横山教授を座長とし、添田町の行政区長会の方々と意見交換を行いました。

＜＜主な意見＞＞

- 高齢化による町全体の孤立化（若い人だけでなくお年寄りも付き合い方が難しくなっている。）
- インターネットに対しても最初から拒否反応をおこす。まず、言葉の意味からしてわからない。ICTとは？
- お年寄りの中には、添田町のホームページすら知らない人が多い。
- 添田町のホームページは知りたい情報が少ない。（内容の深い情報がない。）
- 高齢者の安否情報を発信する手段で良い方法がわからない。
- 避難勧告の連絡等、迅速に情報がほしい。
- インターネット教室等でパソコンの使い方から教えてほしい。
- パソコン操作でキーボード操作は問題ないのだが、インターネット自体の機能の使い方がわからない。

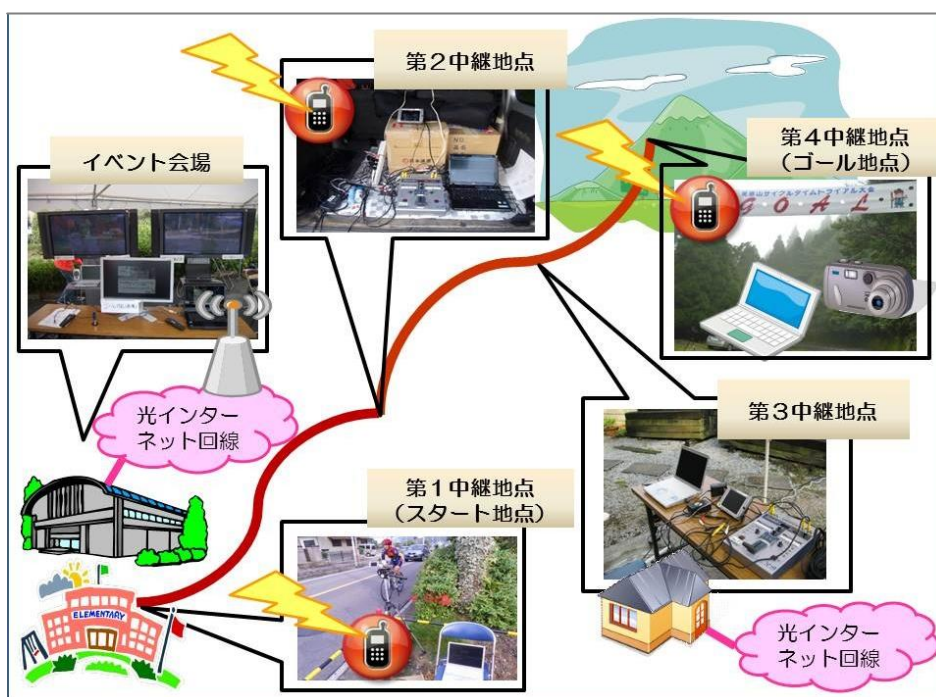
- 個人情報保護等で昔より情報周知が難しくなってきた。
- 若い人に何かを残せる町づくりをめざしたいが、具体的な案がない。



【意見交換会の様子】

④ 英彦山サイクルタイムトライアル大会初のインターネット中継実験 (平成24年9月23日)

第22回英彦山サイクルタイムトライアル大会」の初のインターネットライブ中継を実験的に試みました。並行して開催された「ご当地グルメ in そえだ ～食べてみり添田～」のイベント会場（開会式、表彰式会場）では別途光インターネット及び Wi-Fi 環境を整備し、中継画像を大型モニターに表示させることで、選手の家族・同行者、観戦者、観光者等に対し、本ライブ中継を楽しんでいただきました。具体的には、全長 15.1 km（スタート地点とゴール地点の標高差約 800m）の競技コース上に4箇所の中継地点を設け、ビデオカメラ、ノートPC、モバイルルーター等の機器構成で Ustream 配信を実施しました。なお、ゴール地点は電波状態が悪いため、デジタルカメラの静止画配信という手法を採りました。



【インターネットライブ中継全体イメージ図】



【インターネットライブ中継実験の様子】

※インターネットライブ中継配信URL（現在は録画映像をご覧ください。）

<http://www.kiai.gr.jp/soeda/timetrial2012.html>

⑤添田町ソーシャルメディアビジネス活用セミナー開催

（平成24年10月29日（月） 19：00～21：00

ソーシャルメディアを利用している添田町住民の方々に対しソーシャルメディアのより効果的な活用方法などを習得して頂くことを目的としセミナーを開催しました。



【ソーシャルメディアビジネス活用セミナー模様】

⑥九州 ICT オープンスクール in 添田の開催

（平成24年12月3日（月）～4日（火））

九州内のICT研究者（学生）による中山間地域における様々な課題解決に向けたグループ討議を実施しました。

添田町における現状の地域課題について、添田町役場、添田町商工会、地域住民を交えて意見交換を行い、学生はグループ討議でICTを利活用した課題解決について検討し、最終日にはその解決策について、発表を行ないました。

【参加大学】

九州大学、九州工業大学、九州産業大学、佐賀大学、長崎総合科学大学、大分大学、宮崎公立大学、鹿児島大学（全8大学、参加学生15名）

*全体で4グループに分かれ、各々与えられた課題に対し、町関係者の方々の意見交換等を進めながら検討を進めていきました。

【検討課題】

- ① 非常災害時等における防災（システム、体制）
- ② 少子高齢化対策（高齢者見守り、若者定住促進等）
- ③ 地域ブランド（特産品開発、観光振興等）
- ④ 地域の情報発信（SNS 利活用等）

【検討結果】

Aグループ：「非常災害時における防災」

山間部において、アクセスポイント機能を有した車両を介して、災害時でも安定した通信を提供できるシステムを提案

＜提案システム名＞

CAP：Car Access Point



Bグループ：「高齢者に元氣になってもらうシステムの開発」

添田町の高齢者の高齢者による高齢者のための対策として高齢者がその知識や技術で活動できるサークル設立を提案

＜提案サークル名＞

POPS：Powerful Old People Soeda



Cグループ：「添田町への観光客誘致増大に向けたアプリケーションの開発」

添田町のことを知ってもらい、かつ実際に観光に来た際に役に立つアプリケーション開発を提案

＜提案アプリケーション名＞

そうだ、添田に行こう



Dグループ：「SNSを活用した新たな地域情報発信の仕組みについて」

公開されているSNSのテンプレートを基に、低コストで開発できるSNSを提案

＜提案SNS名＞

「ここだそえだ！」





【九州 ICT オープンスクール in 添田 開催模様】

⑦九州地域情報化シンポジウム in 添田の開催

(平成1月24日(木) ~ 25日(金))

徳島県神山町、香川県高松市よりそれぞれ講師を招いて2つの講演を実施、添田町立落合小学校と鹿児島県肝付町立内之浦小学校間で光ネットワークを使った遠隔交流授業の映像中継配信ならびに、各展示出展参加 ICT 企業による最新サービスのプレゼンテーションを実施しました。2日目の24日には、町民向けインターネット体験教室ならびにインターネット相談窓口を実施しました。

《第1部》 1月24日(木) 13:30~17:00

◇開会挨拶

・添田町長 寺西 明男 氏

・添田町情報化推進勉強会座長(長崎総合科学大学教授) 横山 正人 氏

◇基調講演1:「地域づくり「神山モデル」~企業誘致から人財誘致へ~」

NPO 法人グリーンバレー 理事長 大南 信也 氏

◇光インターネットを活用したデモンストレーション(遠隔交流授業)

添田町立落合小学校 ~ 鹿児島県肝付町立内之浦小学校

◇基調講演2:「ICT 就労で元気なママさんや障がい者などテレワーカーが地元企業をお手伝い ~就労弱者の経済的自立と社会参加を目指して~」

NPO 法人マイシアター高松 古市 努 氏

◇情報通信技術を活用した最新サービスの紹介

(株) BCC、マズプロ電工(株)、KDDI(株)、富士通(株)、

(株) KIS、(株) デンソー

(順不同)



【九州地域情報化シンポジウム in 添田（第1部） 開催模様】

《第2部》 1月24日（木）18：00～20：00

◇ディナーミーティング

《第3部》 1月25日（金）9：30～10：30

◇インターネット体験教室

◇インターネット利用相談窓口



【九州地域情報化シンポジウム in 添田（第3部） 開催模様】

⑧住民アンケート調査

上記のような活動と併せて、住民の方々の情報化に関する様々なニーズ等を掌握していくため、添田町民1,830人の方をサンプリングし、町役場を通じ、以下のようなアンケート調査を実施しました。結果、全体で741件（回収率：40.5%）の回答を得ました。

【アンケート概要】

下記の7項目に基づく調査を行いました。

- 基本的事項（6質問）
「年齢区分、性別、職業、居住地区など」
- 暮らしに関する事項（7質問）
「住むきっかけ、買い物、通院などの暮らしに関する事項など」
- 情報の入手に関する事項（2質問）
「世間一般の情報と添田町内の情報の入手方法」

- ・情報環境に関する事項（9質問）
「携帯電話、パソコンの所有や利用方法など」
- ・インターネットの利用に関する事項（9質問）
「インターネットの利用実態、利用料金に関する事項など」
- ・敷設された光ファイバーに関する事項（2質問）
「理解度や申込み状況など」
- ・添田町の将来に関する事項（2質問）
「利用したい住民サービス、町として推進すべき事項」

【集計結果概要】

PC保有率は、全体として61.8%（非保有34.7% 無回答3.5%）であり、総務省の平成23年通信利用動向調査（世帯編）値である77.4%を下回ってはいますが、過去に実施してきたその他中山間地域（平均して40%台）と比較すると、比較的の高い数値結果となりました。

また、携帯電話（スマートフォン含）保有率は、88.7%（非保有10.3%、無回答1%）であり、総務省調査値である94.5%を下回ってはいますが、これも過去に実施してきたその他中山間地域（平均して70%台）と比較すると、比較的の高い数値結果となります。

PC、携帯電話の非保有者に対して「今後手に入れてみたい情報通信機器」に関する質問結果を分析したところ、PC非保有者に関しては16.4%の方が、今後PCを購入してみたいと回答しており、スマートフォン等を含めたその他情報通信機器も含めると、PC非保有者の49.6%の人が何らかの情報通信機器の購入をしてみたいと考えていることが判明しました。

一方、携帯電話非保有者の57.3%の人が何らかの情報通信機器の購入をしてみたいと考えおり、携帯電話だけに限れば10.7%の人が携帯電話を購入したいと考えていることが判明しました。

自宅でのインターネット利用率に関しては、アンケート回答上、43.5%という数値となり、九州全体でのブロードバンド普及率54.0%、福岡県内の普及率65.0%（総務省 九州総合通信局発表 平成24年3月末値）を下回る結果となりました。

また、PC保有者のうち、インターネットに接続している方は、68.7%であり、PC保有者の約3割の人は、インターネット未接続状態でのPC利用にとどまっています。

現在、自宅でインターネット利用していない方で、今後のインターネット利用に関する質問に回答を頂いた総数のうち、「利用したい」と回答した方は16.7%、「教えてくれる人、機会があれば利用してみたい」は12.

7%、「利用したいが迷っている」は13.3%という値となり、これらを合わせると、インターネット未利用者のうち、約4割の方が潜在的利用者と考えられることもできます。

今後、どのような地域サービスを受けたいか、という質問に対しては、回答数の多かったものから、「迅速な災害情報、避難情報の提供」「独居老人の見守り」「急病等の際、自宅で応急措置情報を得られる」「自宅で診断、健康管理指導を受けられる」等といったようなものとなりました。これらのサービスの実現には、町民の方々が何らかの情報通信環境を手に入れる必要があり、こういった観点からも、インターネット利活用の普及促進に向けた解決策のヒントが得られるのかもしれませんが。

年 齢	P C	携帯電話
19歳以下	87.5%	87.5%
20～29歳	79.2%	97.9%
30～39歳	72.2%	94.9%
40～49歳	76.7%	96.5%
50～59歳	68.1%	91.0%
60～64歳	63.1%	97.2%
65歳以上	43.3%	75.3%
年齢無回答	75.0%	75.0%
全 体	61.8%	88.7%

【PC、携帯電話保有率】

年 齢	インターネット利用率
19歳以下	100.0%
20～29歳	86.5%
30～39歳	86.0%
40～49歳	80.3%
50～59歳	72.2%
60～64歳	54.5%
65歳以上	51.0%
年齢無回答	100.0%
全 体	68.7%

【PC保有者のインターネット利用率】

年 齢	利用したい	教えてくれる人、機会があれば利用したい	利用したいが迷っている	利用したくない	わからない
19歳以下	0.3%	0%	0%	0%	0%
20～29歳	0.3%	0%	1.2%	0.9%	0.6%
30～39歳	1.8%	0.3%	2.4%	1.5%	1.5%
40～49歳	1.2%	1.5%	1.2%	2.1%	1.5%
50～59歳	4.2%	1.5%	2.1%	4.2%	5.8%
60～64歳	3.3%	4.2%	3.3%	9.1%	4.2%
65歳以上	5.5%	5.2%	3.0%	18.5%	7.0%
年齢無回答	0%	0%	0%	0.3%	0%
全 体	16.7%	12.7%	13.3%	36.7%	20.6%

【(インターネット未利用者の) 今後のインターネット利用意識に関する調査】

(3) 平成24年度活動総括

平成24年度より新たに活動を展開した地域である添田町では、勉強会発足後、まずは本勉強会活動を地域の方々に幅広く認知していただくことも踏まえ、町内10ヶ所の公民館で開催するインターネット体験教室から事業をスタートさせたところです。なお、本教室開催に際しては、教室応募日のうちにすぐに定員に達してしまい、その後追加応募が生じる等、地域住民の方々の潜在的なインターネット関心の高さを知ることができたことも大きな収穫でした。また、商工会の青年部、婦人部といった、地元の若手・中堅の方々と行った意見交換では、町全体としての情報発信をいかに効果的に行っていく必要があるか等、地域情報の発信に対して、大変前向きなスタンスである点も理解できました。

しかしながら、町全体としては、個人、あるいは個人の団体がソーシャルメディア等を活用した情報発信をそれぞれで行っているような状況で、添田町としての全体的な情報発信の取り組みに関しては、まだ十分にはなされていない状況にあると思われます。

そういった中、勉強会としては、添田町における例年の町おこし行事である「英彦山サイクルタイムトライアル大会」の初のインターネットライブ中継実験や「ソーシャルメディアビジネス活用セミナー」を実施し、できる限り地域を巻き込んだうえで、情報発信に対する関心を高めていく事業を進めていきました。

添田町での活動はスタートしたばかりですが、これまでの活動を通じ、添田町を代表する観光資源である英彦山や、町に散在する様々な歴史文化財等といった貴重な地域資源を有効に活用した添田町ならではの情報発信を地域一体となって取り組めるような仕組みづくりの必要性を強く感じたところです。

現在、実施中である住民アンケート結果も有効に分析しつつ、町内関係者と共に、平成25年度以降の具体的な事業を計画していきたく考えています。

5. 湯前町活動結果

(1) 湯前町概要

- 人口：4,379人（H22 国勢調査速報）
- 世帯：1,515（H22 国勢調査速報）
- 高齢化率：33.1%（H17 国勢調査）
- ※平成 22 年度町内全域に渡る光ファイバー整備事業が終了。
- ※各戸に音声通報端末を設置。
- ※町の基幹産業は第一次産業。



(2) 活動報告

①・タウンミーティング

【第三回】 4月19日（木）13：00～14：30

湯前町役場のうち、産業振興課、農業委員会事務局、農業公社の方々と意見交換を行いました。

《主な意見》

- ・競市場では競札を手書きで書いており時間がかかる。ICTを使って効率化できないか。
- ・農家への案内は高齢者が多いためメールが活用できない。このため口蹄疫の時も電話で各戸に連絡した。（現在は音声告知端末が有り便利）
- ・農地管理はGISと連動していて便利（地籍、地図、航空写真）
- ・営農指導は農協がやっているが、これとは別に、若手農家の勉強会やグループを視察している。
- ・生産よりも流通で挫折することが多い。
- ・高齢者は跡取りがいないため、増産や増収への意欲が低い。
- ・新設した農業公社と農業高校との連携で農業、畜産を活性化させたい。

【第四回】 4月20日（金）9：00～10：30

湯前町役場の総務課、議会事務局、区長会の方々と意見交換を行い、終了後にiPadの体験をしていただきました。

《主な意見》

- ・町内で買えないものはネットショッピングを利用するか、熊本市、鹿児島市、福岡市まで買い物に行く。
- ・ネットは携帯電話よりパソコンでの利用が多い。光に代わって満足している。
- ・ネットはADSLで充分、光にするとIP電話が利用できない。
- ・卒業記念映像をYouTubeに掲載している。
- ・Facebookを始めた。

- 町での買い物や、高齢者（独居老人）の安否確認を iPad で出来たらいい。
- 議会のネット中継をしてほしい。



【意見交換会の様子】



【i Pad 講座の様子】

【第五回】 8月20日（月）13：30～14：40

湯前町の区長（23名）と意見交換を行い、終了後にスマートテレビのデモを見ていただき、大変好評でした。

《主な意見》

- 独居老人の見守りサービスや、防災に関する要望がありました。
- 地域のコミュニティは存在しつつも、若者減少や、若者の不参加等があり、危機感を持たれていた。
- 防災に関しては、自主防災班を設置するなど、体制を構築できているが、若者等の担い手がないことが課題。

【第六回】 8月21日（火）9：00～10：30

湯前町役場産業振興課、上球磨森林組合、球磨プレカットの方々との意見交換を行いました。

《主な意見》

- 森林組合は130名程度。若い人も入ってきており、国内でも有数の森林組合で林野庁からもヒアリングを受けている。

- ネットの利活用についてはニーズがなく、現場での打ち合わせや紙の図面を利用している。



【意見交換会の様子】



【スマートテレビデモの様子】

② 第2回湯前町ICT利活用勉強会（平成24年4月19日（木））

- 15団体29名が参加
- 水俣市、多良木町、山江村、球磨村の職員が視察
- 平成23年度活動実績報告、平成24年度活動計画（案）を説明
- 平成24年度の取り組みを協議（おっばい祭り、オンラインマンガ講座等）
- 地域情報化に関する参加者相互による自由討議



【鶴田町長挨拶】

【会場の様子】

③ 第7回ゆのまえ潮おっばい祭り映像配信支援(平成24年4月29日(日))

町民の手作りイベントである「第7回ゆのまえ潮おっばい祭り」において、お祭りの情報発信を支援しました。また、“地域のお祭り”としてだけでなく、“おっばい”をキーワードに、“女性”に深く関わりのある“ピンクリボン運動”とも連動した新たな地域振興を目指して、プログラムに「おっばいトークセッション」の企画を盛り込みました。

【Wi-Fi 環境構築】

- ・iCOM 製ワイヤレスアクセスポイント AP-500 2台
- ・BUFFALO 製無線 LAN アクセスポイント AirStation Pro WAPM-APG300N 2台



【会場の様子の Ustream 配信】

構築した Wi-Fi 環境を利用して、おっばい神社の神事の様子や、メイン会場の催しを Ustream 配信しました。



【Ustream 配信映像】

【Facebook による情報発信】

Facebook ファンページを設置して、事前周知を実施し、当日も有志で写真を投稿する等PRをした結果、4月1日時点で「いいね数=0件」だったのが、5月1日時点で「いいね数：45件」となりました。

(参考 いいね数：9月末 80件、 H25. 2末 89件)



【Facebook ページ】

【おっぱいトークセッション】

トークセッションでは、ピンクリボン運動や、乳がん検診、早期治療等について、有識者にご講演いただき、会場のみなさまと一緒に乳がんについて考えていただきました。

(出演者)

- ・テレビ熊本 (TKU) 田代 彩華 氏
- ・球磨郡公立多良木病院 総合健診センター長 青木 範充 氏
- ・おっぱいリレー運営事務局 諸田 滋子 氏
- ・ゆのまえ温泉 湯楽里 支配人 西 美記子 氏
- ・おっぱい祭り実行委員長 竹下 裕一 氏



【おっぱいトークセッションの様子】

【インターネット体験コーナー】

構築した Wi-Fi 環境を利用して、i Pad によるインターネット体験コーナーを設置しました。



湯前町 ICT 活用推進会

第7回ゆのまえ潮おっばい祭り

インターネット体験コーナー

平成24年4月29日(日)10時～16時

ゆのまえグaitenパレス芝生広場 東園近辺

町で整備された光ファイバーインターネットを利用して、いろんなインターネットサービスを体験できるよ～(o^▽^o)～

初心者の方も気軽に遊びに来てね～！パソコン、インターネットに慣れる機会もできるよ～(o^▽^o)～

体験コーナー

- 【インターネット体験】
- ・動画視聴
- ・ユーチューブ
- ・動画配信
- ・ユーストリーム
- ・テレビ電話
- ・スカイプ
- 【iPad体験】
- などなど

おっばいトークセッション

会場：芝生広場ステア 時間：12:20～13:10

ピンクリボン運動（乳がん検診受診推進、乳がんの早期発見・治療）に関する取り組みをされている方をお招きし、「おっばい」をテーマに、多面的な視点からトークセッションを行います。出演者からは、球磨地方における、乳がん検診、乳がん患者の状況、人工乳房の普及活動の紹介や、湯前町、おっばい祭りの今後の取り組みについて語っていただきます。途中、「おっばい」に関するクイズもあり、楽しみながら、女性のシンボル「おっばい」について、一緒に考えてみませんか？

おっばいに参加して素敵なプレゼントをゲットしよう！

【インターネット体験コーナーの様子】

《参 考》

【ゆのまえ潮おっばい祭り】

湯前町には、宮崎県日南市の鶴戸神宮と祭神を同じとし、子宝と子育てにご利益がある「潮（うしお）神社」があり、産前産後に乳房をかたどったもの（右写真参照）を奉納し祈願すると、母乳の出が良くなる、と言われてきており、地元では、古くから“おっばい神社”の呼び名で親しまれている。潮神社で毎年行われる安産祈願式と併せ、湯前町における新たなまち起こしイベントとして、町民有志による「潮おっばい祭り」が平成 18 年度より開催されている。



【おっばいリレー活動】

温泉・温浴施設でのピンクリボン運動の一環として行われている。人口乳房をつけた方（及びその家族）が普通に温泉・温浴施設を楽しめるよう、人工乳房が温泉成分や温度による変色や変形などが起こらない、という点について、全国各地の温浴施設への周知と人工乳房の安全性を確かめてもらうための活動。



④ 九州地域ICT利活用調査研究会実施地域（湯前町）における普及啓発事業

a. Facebook 活用によるローカルメディア発信

（平成24年6月28日（木））

整備された情報通信基盤を有効に活用した情報発信に取り組む湯前町商工会会員を対象に、新たな情報発信メディア、ビジネスツールとして注目されている、Facebook の活用事例や、地方におけるFacebook 利活用のノウハウについてのセミナーを開催しました。

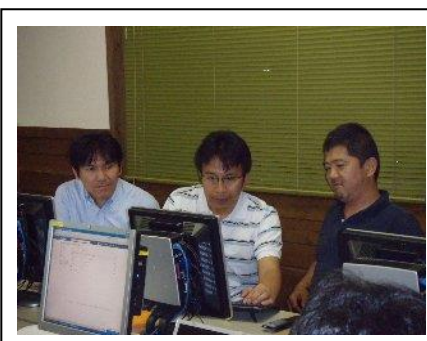
受講者からは中級編、上級編開始の要望が多数ありました。



【牛島講師】



【セミナーの様子】



b. テレビ会議ソフトを活用したオンラインマンガ講座検証実験

（平成24年7月24日（火））

光ファイバケーブル等の情報通信基盤とTV会議ソフトを利活用し、日本でも珍しいマンガ学部がある京都精華大学の篠原先生が、湯前中学校の生徒を対象に風刺漫画の描き方等を指導しました。参観された関係者からは継続実施の要望があり、京都精華大学の篠原先生からも、今後大学のカリキュラム化を検討していきたいとの話がありました。

【講座内容】

- ・湯前町イメージキャラクターデザイン講座
ゆのまえ町イメージキャラクターデザインの応募作品の作成。
- ・那須良輔風刺漫画大賞講座
第21回那須良輔風刺漫画大賞の応募作品の作成。

【利用機材、ソフト等】

- ・ペンタブレット WACOM 製
- ・テレビ会議ソフト シスコ製 WebEx
- ・ペイントソフト Fire Alpaca
- ・画面キャプチャソフト ManyCam



【篠原先生】



【講座の様子】



⑤ 湯楽里おっぱいリレー2012LIVE 映像配信支援

(平成24年10月13日(土))

ピンクリボン運動のひとつであるおっぱいリレーに湯楽里が参加し、そのおっぱいリレーの様子を Ustream で LIVE 映像配信をしました。

参加者は湯前町役場 鶴田町長、高橋氏、西氏、湯楽里 西支配人、栗須氏、おっぱい祭り実行委員長 山下氏、30 分の検証時間のなかで、湯前町、湯楽里のPRを実施しました。

【Ustream チャンネル】

<http://www.ustream.tv/channel/oppai-relay>

【取材にきたメディア】

TV：NHK、熊本朝日放送
新聞：熊本日日新聞、西日本新聞、
ひとよし新聞、週刊ひとよし



【配信映像】



【人吉新聞】

⑥ ゆのまえ漫画フェスタ 2012「ICT利活用体験デモ」

(平成24年11月11日(日))

熊本県球磨郡湯前町の一大イベントである「ゆのまえ漫画フェスタ2012」において、情報発信力の強化、ICTリテラシー向上、利活用推進を目的として、iPadとの体験等をしていただきました。

【iPad体験】

iPadを4台設置し、画像編集体験やゲームを楽しんで頂きました。

【合成写真作成】

フリーソフトのクロマキー機能を使い、合成写真の作成とプリントサービスを実施しました。



【ステージの様子】

【ブースの様子】

⑦ 湯前町ローカルメディア利活用推進合宿

(平成24年12月8日(土)～9日(日))

湯前町住民の皆様を対象として、地方における情報発信力の強化、ICTリテラシー向上、利活用推進を目的とした「ローカルメディア利活用推進合宿」を開催しました。

この合宿では、従来のマスメディアとインターネット上のメディア双方を上手に活用した情報発信の基礎知識、ノウハウの習得を目指すとともに、地方におけるこれからのメディア利活用について講演とワークショップ(実技)を行いました。

内 容：

講演1：「いろいろなメディアを使いこなすコツ」

(株)ローカルメディアラボ 代表取締役 牛島 清豪 氏

講演2：「変化するテレビ・ラジオの世界」

(株)熊本放送 メディア企画局メディア広報部 次長 田尻 浩章 氏

講演3：「情報発信のための”知の素っぴん力”磨き」

熊本日日新聞社 N I E 専門委員 越地 真一郎 氏

講演4：「魅力ある映像コンテンツの作り方」

(株)熊本放送 報道制作局 テレビ制作部 次長 薛 力夫 氏



【牛島 氏】



【田尻 氏】



【越地 氏】



【薛 氏】



【講座の様子】



⑧ 湯前町インターネット相談会（平成24年12月～平成25年2月）

湯前町民の皆様の「デジカメの画像をパソコンに取り込みたい!」、「インターネットに接続したい!」、「パソコンの動作が不安定になった!」等の、パソコン・インターネットに関するお悩み解決のお手伝いをしました。

開催日	参加者数	相談内容
H24.12.13 (木)	0	-
H24.12.20 (木)	1	・Word の操作について
H25. 1.17 (木)	5	・メール設定 ・Skype 設定 ・パソコン、iPad、スマートフォンなど、自分にとって何が最適であるか（料金など） ・デジカメ写真の取込み ・USBメモリへの取込み ・Excel、Word作成（写真取込み）
H25. 1.31 (木)	3	・日記サービスについて ・パソコンの動作不具合（遅い） ・ネットショッピングについて
H25. 2.14 (木)	3	・湯前町インターネット設定情報の確認 ・パソコンの動作不具合（遅い） ・Facebook について
H25. 2.28 (木)	4	・パソコンの動作不具合（遅い） ・パソコン起動時の設定 ・パソコン基本操作 ・YouTube について ・スライドショー作成について



【相談会の様子】

⑨ 地域力活用新事業∞全国展開プロジェクトの連携支援

湯前町商工会が今年度取り組んでいる「地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト」の調査事業に参画し、おっぱい部会委員として”おっぱい”をキーワードとした、特産品開発や、福祉観光開発についてICT利活用の観点から支援しました。

商工会は平成25年度に向けて、本事業を実施事業として申請中です。



【部会の様子】

【試作品】

(3) 平成24年度活動総括

湯前町の活動については、先行して取り組んでいる肝付町でのノウハウを活かすことができたため、より効果的な活動を実施することができました。このため、早い段階から地域に入り込むことができ、役場のみならず、商工会ほか関連団体、地域キーマンと連携協力した活動が出来ました。地方の自治体における情報化推進においては、特に情報発信力向上が必要との認識から、Facebook 講座や、イベントでのUstream 配信等を実施しすることで、情報発信コミュニティを形成するとともに、スキルアップを図りました。特に試験的に実施した、新聞、ラジオ、テレビ、ネットの各種メディアを一元的に学ぶ機会となった「ローカルメディア合宿」については、参加者から高い評価を得ることができたと考えられます。(このローカルメディア合宿の成果を元に、宮崎県の自治体職員研修を実施)

また、インターネット教室については、添田町での成果を反映し、より地域住民が参加しやすいように公民館で実施するとともに、初心者のレベルアップ、挫折者の掘り起しをねらって、相談会という形をとり、参加者からは継続的な実施の強い要望をいただきました。

このような活動を評価いただき、湯前町商工会からは「地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト」への参画、また町役場からは、町が構築した「健康レシピサイト」の改修や、ICTを有効活用した6次産業化推進関連プロジェクトへの支援要請等の依頼を受けることとなり、平成25年度に関しては、こういった湯前町における具体的な地域づくりに直接関与していくとともに、従来より進めてきた情報発信能力向上を狙った各種啓発事業を併行して進め、今後の継続的な地域情報化推進体制の在り方を引き続き検討していきます。

地域情報化推進の主な意義とは、コミュニティ並びにコミュニケーション形成能力向上を通じた地域の活性化であることが、湯前町での活動を通じて改めて認識できました。今後、湯前町における上記のような活動を推進していきながら、地域づくりにおける地域情報化の役割等について、幅広く分析していきたいと考えています。

6. 肝付町活動結果

(1) 肝付町概要

人 口：17,156 人（H22 国勢調査速報）

世 帯：7,495 （H22 国勢調査速報）

高齢化率：34.8% （H17 国勢調査）

※平成17年に旧高山町、旧内之浦町が合併して誕生。

※平成22年度町内全域に渡る光ファイバー整備事業が終了。

※町の基幹産業は第一次産業。



(2) 活動報告

① NPO法人きもつき情報化推進センター設立

町の情報化推進に取り組む情報通信関連組織として、NPO法人きもつき情報化推進センター設立総会が2月10日（金）に開催され、5月25日に正式に鹿児島県から認可がおり、設立登記が終了しました。

② 総合情報ポータルサイトの構築支援

将来的に町の情報発信を一手に担うことを目指したポータルサイトの構築を研究会として企画検討してきましたが、このたび「きもつき情報局」という名称のもと、9月1日にベータ版を公開しました。

③ きもつき情報化推進ウィーク2012開催支援

（平成24年9月14日（金）～16日（日））

今年度の情報化推進ウィークには、ICTの最先端を伝えるオンラインメディア「TechWave」（湯川鶴章編集長）が主宰するセミナー「TechWave塾」の塾生も参加し、日頃からグローバルな視点で活躍する塾生が、肝付町の皆様とともに、情報化の方向性、効果的な情報発信とそのポテンシャルについて再認識し、次代にICTをフル活用する町の姿を考えました。

【9月14日（金）】

1. 肝付町立高山小学校 特別授業 6年生（75名）
 - ・講師：TechWave 編集長 湯川 鶴章 氏
 - ・タイトル：「ネットが変える社会とこれからの生き方」
2. 第9回 肝付町経営戦略懇談会 特別講演
 - ・講師：TechWave 編集長 湯川 鶴章 氏
 - ・タイトル：「ネットが変える社会とこれからの生き方」

【9月15日（土）】

インターネット相談会・学習会
（きもつき情報化推進センター主管）

- ・インターネットなんでも相談会
- ・総合情報ポータルサイト「きもつき情報局」説明会
- ・インターネットお楽しみ講座
- ・初心者のための iPhone 講座
- ・スマートテレビの展示

【9月16日（日）】

オープンセッション「きもつき情報化セミナー」

講演1：「あと半年でネットが社会を変える？」

TechWave 編集長 湯川 鶴章 氏

講演2：「人が集まるまちおこし地域競争の時代に備えて」

フリーコンサルタント・ローカルキャリアアドバイザー

横田 親 氏

きもつき情報局（ポータルサイト）紹介：

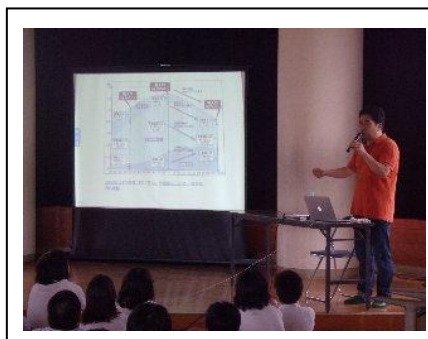
きもつき情報化推進センター事務局長 有留 修 氏

3グループに分かれてのグループディスカッション：

Aグループ：「ウェブを活用しての肝付産品のブランディング」

Bグループ：「ウェブを活用しての肝付観光を活性化」

Cグループ：「肝付で生み出すウェブサービス」



【特別授業の様子】



【インターネット相談会の様子】



【グループワークの様子】

④ きもつき情報局開局記念式典（平成24年10月1日（月））

NPO法人きもつき情報化推進センターが肝付町のあらゆる情報を一元的に配信する総合情報ポータルサイト「きもつき情報局」を開局しました。

式典には永野町長をはじめ、町内から90人もの参加者があり、町民の関心の高さを伺うことができました。K I A Iはサイト構築において、技術的支援及びSNSサービスの組み込み活用のアドバイスを行いました。

式典では有留局長から「きもつき情報局」の目的、概要の説明があり、記念講演として日本ビジネスインテリジェンス協会理事長の中川十郎氏から「肝付町の未来と世界を結ぶ「きもつき情報局」」をご講演頂きました。



【長野町長挨拶】

【有留局長の説明】

【中川先生の記念講演】

【会場の様子】

(きもつき情報局の活動目的)

- 肝付町の知名度アップに貢献すること
- 情報発信により地元の人、モノ、カネ、技術、知識等の流れを生み出すこと
- その流れに沿って地域経済にプラスの効果を生み出すこと
- 町民が参加し、集える場をつくりだすこと
- 町民の学びを手助けするツールとなること

(情報リテラシーの向上、知的刺激の場の提供など)



【総合情報ポータルサイト「きもつき情報局」】

⑤ 高山やぶさめ祭り LIVE 映像配信支援(平成24年10月21日(日))

肝付町での最大のイベントである、高山やぶさめ祭りにおいて、町役場、NPO法人が実施する UstreamLIVE 映像配信中継の技術的支援を行いました。

今回は、役場建屋に本部(中継席)を設置し、現場に敷設された光ケーブルを活用したネットワークを構成しました。(昨年は本部を馬場近接の護国神社とし、LANケーブルによるネットワーク構成でした。)

NPO法人が中心となり企画し、UstreamLIVE 映像は総合ポータルサイト「きもつき情報局」で配信されました。

また、当日の映像だけでなく、射手が決まってからの練習や、神事等も取材、配信し、ひとつのコンテンツとして多くの視聴者から評価されました。

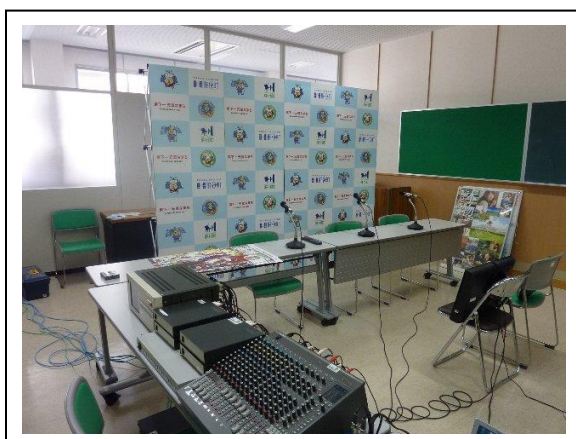
来年度以降も、やぶさめ本体、祭り、映像配信、FM放送等と連動するとともに、町のイベントを情報発信するコミュニティの形成を図っていくことが必要と思われます。



【今年の射手】



【Ustream 機材設置】



【実況中継席(役場内)】



【配信映像】

⑥ 平成24年度肝付町情報発信塾（平成25年1月～平成25年3月）

昨年度に引き続き、町民のICT利活用推進、ICTリテラシー向上を目的とした、情報発信塾を開催しています。今年度はiPadを活用した講座をメインとしています。受講者からは一度だけでは覚えられないといった意見が多く、継続的な活動が必要と思われます。

また、機器の購入方法や、無線NW導入等を支援する体制も必要と思われます。

講座名	講座名内容	日時	参加者数
iPad 体験編	対象者：iPad未経験者、初心者 ・iPad機能、基本操作説明 ・アップル社のサービス概要説明 ・アカウント取得（説明のみ） ・インターネット体験	1月25日（金）	12
		1月26日（土）	6
iPad 入門編	対象者：同上 ・iPad標準アプリ操作説明 ・アプリのダウンロード体験	2月1日（金）	10
		2月2日（土）	5
iPad 利活用編	対象者：同上 ・無料アプリ（ゲーム、写真）の体験	2月15日（金）	10
		2月16日（土）	6
Facebook 一般編 ※スマートフォン利用	対象者： <u>アカウントを取得したが、使い方がよくわからない人で、日頃、スマートフォンから利用している人</u> ・スマートフォンでのFacebook利活用及び注意点の説明	3月1日（金）	5
		3月2日（土）	4
Facebook ビジネス編 ※パソコン利用	対象者： <u>アカウントを取得で更なる利活用をしたい人</u> ・各種機能について（ページ作成、アプリ利用、サービス連携等）	3月8日（金）	6
		3月9日（土）	4
情報セキュリティ 一般編	対象者：インターネット利用者 インターネットを利用する上での注意点、危険性等をわかりやすく説明	3月6日（水）	14
情報セキュリティ 保護者編	対象者：小中高生の保護者及び教育関係者 ケータイ、スマホを利用する上での注意点、危険性等をわかりやすく説明	3月7日（木）	19



【塾の様子】

(3) 活動総括

平成22年10月の設立以来、「肝付町情報化推進研究会」を中心とした様々な地域情報化活動に取り組んでまいりました。

その間、主に取り組んできた事業は以下のような内容となります。

- ・タウンミーティングの実施（計5回）
- ・肝付町住民アンケートの実施（1, 800世帯対象）
- ・肝付町地域情報化基本計画策定支援（平成22年度策定）
- ・肝付町ポータルサイト構築企画支援（平成24年度完成）
- ・肝付町情報発信塾開催支援（平成23年度より活動継続中）
- ・流鏝馬祭りインターネット配信実験支援（3年間継続実施）
- ・各種普及啓発イベント開催、及び支援
 - 九州地域情報化シンポジウム in 肝付開催（平成22年度）
 - きもつき情報化セミナー開催支援（平成23年度）
 - きもつき情報化推進ウィーク 2012 開催支援（平成24年度）

また、このような研究会活動を行っていく中、今後の肝付町における地域情報化活動を継続して担っていける組織体として、「NPO 法人きもつき情報化推進センター」が、肝付町関係者の手で平成24年度に設立されました。

これは、肝付町地域情報化基本計画にも示されている「継続的な地域情報化事業確立に向けた組織づくり」のひとつが実現できたものであり、本研究会活動の最大の成果ではないかと考えられます。

一方で調査研究活動の過程において、スマートフォンや、SNSを活用し、町内情報発信を自主的に行っている人達とのコミュニティを形成することが出来ました。今後はこのコミュニティとNPO法人とが連携することで、活発な情報発信が行われ、肝付町ファンを増やしていけるものと考えられます。

このように、今後の肝付町での情報化推進活動は「NPO 法人きもつき情報化推進センター」が中心となり、普及啓発、人材育成も含めた様々な情報化推進事業を地域の関係者と一緒に担っていくこととなります。このような“きもつき情報化推進センター”における活動本格化に伴い、研究会としては一定の役割を遂げたものとして、平成24年度（平成25年2月12日）にて閉会いたしました。

研究会としての活動は終了いたしますが、きもつき情報化推進センター及び肝付町における今後の地域情報化活動に関しては、研究会事務局（K I A I）としても可能な限りのご協力を継続していきたいと考えております。閉会式の際、永野町長からも、「研究会活動は終わりとなりますが、肝付町の情

報化は今からが始まりという認識である。今後もK I A Iとの関係を維持していき、町の情報化施策にアドバイス、支援をいただきたい」とのお言葉をいただきました。

今回の肝付町における活動成果は、他の自治体における情報化推進、ICT利活用推進活動のモデルケースとしても大いに参考にできる内容であると思われ、肝付町情報化推進研究会におけるこれまでの活動内容、活動成果に関しては、平成25年度に総括報告書を作成し、関係機関に配布させていただく予定です。



【永野町長】



【横山部会長】



【窪田理事長（NPO 法人）】



【有留事務局長（NPO 法人）】



【白坂氏】



【会場の様子】

7. 富士町活動概要

(1) 富士町概要

- 人 口：5,116人 (H12 国勢調査)
世 帯：1,379 (H12 国勢調査)
高齢化率：31.5% (H12 国勢調査)
※平成17年に佐賀市、諸富町、大和町、
富士町、三瀬村が合併して「佐賀市」と
なった。
※平成21年度より「情報化ビレッジ形成
プロジェクト」が進行中。(佐賀県委託事業)
※町の基幹産業は第一次産業
※H19年度に町内光ファイバー網整備終了



(2) 活動報告

地域の情報通信推進組織である「(株) インビル」(富士町)、支援要請に応じた活動を展開しつつ、ポータルサイト構築、特産物開発、販売等をはじめとした様々な組織運営手法等のノウハウを、他地域の活動の参考とすべく、情報交換等を行いました。

特に湯前町が検討している「6次(産業)化」への取組については、有益な情報を提供いただき、視察研修の候補先への仲介等を対応していただきました。

(3) 活動総括

富士町での活動は、(株) インビル(活動当初は「ふじねっと」)における、「地域に入り込み、地域の人を巻き込んで自らが地域の情報通信推進組織として自立・継続する」という活動を支援し、(株) インビルでの様々なノウハウを他地域にもフィードバックさせていく、ということがメインでした。このような富士町での活動は、肝付町でのNPO法人設立、湯前町での地域コミュニティづくり等に関しても大いに参考となり、今後はそういった肝付町、湯前町での成果を他地域にフィードバックさせていきたいと考えており、現在の富士町での活動は、平成24年度でいったん終了いたします。

なお、今後とも(株) インビルとの連携関係は継続し、適宜情報共有等を図りつつ、本調査研究活動の広域的な推進に役立てていきたいと考えています。